

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
重点目標	A 学校の教育理念や歴史を理解し、学校に誇りを持つ。 B 自らの進路を主体的に考え、学習に生かすことができる。 C 生徒にとってかけがえのない学校生活を充実させる。 D 教育環境に対し、常に最高の教育環境を維持する。 E 国際社会を見据え、韓国人としての矜持や国語（韓国語）を学ぶ礎を築く。

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	変化が見られる (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

達成度は生徒アンケートで、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の数値(%)の合計で表す。

年度目標		学校評価				年度評価			
重点目標	設問番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
A	1, 2, 3	・昨年度、関連設問に対する肯定的な回答の割合が平均71.6%であった。 ・本校創立の背景・経緯を理解し、学校運営の継続がいかに意義のあることであるかを理解することにより、本校で学ぶことへの誇りを持たせることが生徒のより良い成長につながるから、継続的な取り組みが必要な状況である。	生徒自身が学校設立の背景を理解し、誇りを感じることができている取り組みの実施。	・生徒が毎日必ず通る展示ギャラリーで本校の歴史に関連した展示内容を充実。 ・創立記念講話においては、校長による講話を通し実施創立当時の状況や苦難を乗り越えた経緯を生徒たちがより深く理解できる内容で実施。 ・韓日の友好の歴史文化である「朝鮮通信使」に関連したフィールドワーク・発表活動を実施。	・「学校に誇りを感じる」生徒が2/3を超える。 ・「学校設立」背景を理解する生徒が2/3を超える。 ・本校が目指す生徒像を理解する生徒が2/3を超える。	・設問1～3の肯定的な回答の割合は、 設問1：81% 設問2：71% 設問3：80% 平均で77.3%となり、昨年度より向上が見られた。	B+	・記念講話の実施に当り、新型コロナ感染拡大防止の観点から対面ではなくOnlineを導入することにより実施。 ・幼稚園から高校までの一貫校として取り組める体育祭や文芸祭等の行事教育を通し、本校の教育理念・目標の理解の一助となるような指導を強化する。(継続) ・本校で学ぶことの意義や教育内容への理解を促す取り組み。(総合的な探究や様々な行事教育の実施。)(継続) ・学校設立当時を記録した「幻のフィルム」の活用をより推進するとともに、学校設定科目である在日韓国人形成史の授業との連携を図ることにより、生徒達の関心・理解をより深いものにする。(継続)	
B	4, 5, 6	・ここ数年、韓国、日本を含めて進路の実績は向上しており、生徒達の進学意欲は学年が進むにつれて高まる傾向である。 ・昨年度において、設問4, 5, 6の肯定的な意見の平均値は75.3%となり概ね良好な状態である。	進路の選択及び進路希望実現にむけた効果的な取組の実施。	・本校主催の生徒・保護者対象進路説明会の早期実施及び内容の充実。 ・正確で確かな進路情報の伝達の為の、三者面談の活用。 ・大学説明会、進学フェアへの全生徒の参加。 ・職業別ガイダンスの充実による進路への意識付け。 ・模擬テストの有効活用 ・補習授業の充実と強化のための予備校との連携。	・進路に関する設問に対する肯定的な回答が2/3を超える。	・設問4～6の肯定的な回答の割合は、 設問4：83% 設問5：73% 設問6：87% 平均81%となり、昨年度より向上が見られた。	A	・生徒の進路に対する意識付けを早期に行う為のガイダンスや説明会の実施の継続。(継続) ・大学、専門学校等との連携による進路関係行事の実施。(継続) ・卒業生による受験体験談や効果的な受験対策等の講演の実施。(継続) ・進路指導室の整備及び活用の促進。(継続) ・情報端末を活用した進路情報の収集、整理、活用の促進。(継続) ・個別の進路相談及び、進路補習・面接指導等の充実。(継続)	
C	7, 8, 9, 10, 12	・昨年のアンケートでは、該当項目の肯定的な回答の平均が70.8%であった。 ・設問9「悩みや相談を話しやすい環境である。」に対する肯定的な意見が65%にとどまっている。	確かな学力の育成と授業改善	・授業改善にかかわる情報の収集と共有 ・ICT機器(Chromebook)の授業への活用 ・生徒のニーズに応える教育課程の改善 ・少人数制を生かした授業展開の強化 ・日本語韓国語併記による板書、教材準備の推進。	・生徒の授業満足度に関する設問7、8において肯定的な回答80%以上を目指す。	・設問7、8の肯定的な回答の割合は、 設問7：75% 設問8：81% となり、昨年度より向上が見られた。	B+	・教員が教授法及び教材作成活用法などを共有出来るよう、積極的に教員間の授業見学や教科内の会議を行う。(継続) ・Chromebookの導入により、自主性・多様性・協働性を持った学びの実現につなげる授業を展開する。 ・教員の研修への積極的な参加を推進する。(継続) ・科目に応じた習熟度別クラス編成の導入(継続) ・言語能力の向上の為の日常的な指導を取り入れる。	
			安心して通える学校生活づくりを目指す	・学校や教員に対する信頼を高める取組みの実施。 ・保護者との情報交換をより活性化させる。 ・教員の生徒への積極的な声掛け。 ・スクールカウンセラーの助力を強化する。 ・登校指導時の生徒の見守りにより、早期に変化を見つける取組みの実施。	・設問9の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問9の肯定的な回答は昨年同様65%にとどまり、思うような成果が出なかった。 ・スクールカウンセラーと教員の連携が強化された心のケアが必要な生徒へのフォローに対して一定の効果を上げている。			・教員の生徒指導に関して意識の持ち方を改革し、生徒の人格や人権を尊重する意識を高めるとともに、生徒が心を開ける環境を作る。(継続) ・保護者との連絡をより密にし状況に応じては、家庭訪問を積極的に行う。(継続) ・悩みを抱える生徒が自発的に教員に相談をすることが難しい状況があると思われるので、放課後の時間等に生徒が利用できる相談室を設置する。 ・学年担任制度を導入し、複数の教員による見守り体制を新規構築。(継続)
			学校行事を通じた教育の充実	・生徒が自主的に行事の計画・準備・運営に関わる体制の構築。 ・従来行事の精査と強化 ・姉妹校との交流(Online)の強化	・設問10の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問10の肯定的な回答の割合は昨年の68%から70%となった。新型コロナ禍の影響で例年と同様の行事が縮小されたり中止されたことの影響が有るものと考えられる。 ・生徒会が主体となる取り組みが増加した。			・行事の実施に当たり、生徒が自主的に立案、計画、準備、運営に当たれる状況をつくり、やりがいを感じることが出来るものとする。(Chromebook活用継続) ・新型コロナの影響等の要因に対応できるよう内容・時期・頻度等を精査する。(継続)
D	11	・生徒たちの環境維持に対する意識が平均的に高く、施設や設備などは良い状態で維持できている。 ・設問に対する肯定的な意見は68%にとどまっている。	教育施設の充実と環境及び美化意識の向上により、充実した学校づくりを目指す	・施設の充実と有効活用 ・校内美化状況の確認と点検方法の見直し ・清掃活動奨励の強化 ・清掃用具の点検と充実 ・生徒会による周辺地域の美化活動を通じた意識の向上	・設問11の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問11の肯定的な回答の割合は昨年の68%から70%となり、大きな変化は見られなかった。 ・校内の清掃状況は良好である。 ・清掃活動に対し、生徒と教員が一体となって取り組んでいる。	B	・施設や設備のさらなる充実を図るとともに、現有の施設や備品を大切に扱う意識を涵養する。(継続) ・生徒会を通じて生徒自らが、美化意識を向上させる方向へ導く。(継続) ・校内環境が清潔に保たれることの意義を理解させる指導。 ・ICT教育へ向けた施設の設置。	
E	13, 14, 15	・昨年の肯定的な意見の平均は75.7%であった。 ・本校は民族学校として、その教育の柱に韓国語教育を掲げている。英語を含め韓国語の学習は国際社会に通じる道であることは生徒達も認識している。生徒のニーズに答えるべく高い水準の韓国語教育を実践してきている。言語の習得を通じ生徒たちが自信を深めることは、学校教育全体への良い影響をもたらすものと考えられる。	韓国語によるコミュニケーション力の向上	・授業の進行を韓国語で行う割合を出来るだけ高めていく。 ・語彙力の向上にICT(Chromebook)を活用する。 ・韓国語の弁論大会、スピーチ大会へのエントリーを奨励する。 ・協定校との交流の活性化。 ・日常の学校生活において、韓国語を出来るだけ使うことを意識付ける。	・設問13～15の肯定的な回答の割合80%を目指す。	・設問13～15の肯定的な回答の割合は 設問13：77% 設問14：74% 設問15：55% 平均68.7%となり、昨年度より割合が下がっている。 ・設問15については新型コロナ禍の為、韓国との交流が制限された部分をオンラインでの実施を行ったが、大きな効果は得られなかった。	B	・コミュニケーション力向上に必修の単語力向上を期し、校内韓国語単語試験を何時でも何処でも受けることのできるオンラインシステムにより実施。自主的に取り組む生徒の更なる実力向上を目指す。(継続) ・日常の学校生活において教員が韓国語を使いながら指導する機会を増やす。(継続) ・韓国の協定校との交流への参加を更にながし、実際に韓国語を使う機会を増やす。(継続) ・教員全員の韓国語能力の底上げを図る。(継続) ・ICTを活用し、Onlineでの外国の生徒との交流を実施。	